① 外部用

第2回 運営推進会議 議事録

事業所名
インクルーシブデイサービス ippo

サービス種別
地域密着型通所介護（共生型サービス）

会議名
第2回 運営推進会議

開催日・開催時間
2026年9月15日　10:00~11:30

開催場所

インクルーシブデイサービスippo事業所内

報告対象期間
2026年2月27日～2026年9月14日

1. 出席者

地域包括支援センター関係者、民生委員、計画相談支援関係者、利用児童保護者、関係事業者等が参加した。

事業所からは、管理者、生活相談員、介護支援員等が参加した。

2. 会議の目的

地域密着型通所介護事業所として、事業所の運営状況および活動状況を地域・関係機関等へ報告するとともに、参加者から評価、要望、助言等を受け、サービスの質の向上および地域との連携強化につなげることを目的として開催した。

3. 事業所概要・運営方針の説明

当事業所は、地域密着型通所介護と放課後等デイサービスを同一事業所で運営する共生型の事業所である。

「その人がその人らしくいられること」を大切にし、安心できる環境を基盤として、「やってみたい」「できた」「楽しい」という経験を積み重ね、自信や次の行動につなげていく支援を基本方針としている。

また、子どもと高齢者について、あらかじめ特別な交流時間を設定することだけを目的とするのではなく、同じ空間の中で挨拶、見守り、活動等を通じて自然な交流が生まれる環境づくりを目指している。

多職種による連携、個々の状態に応じた活動、環境調整、安全管理、家族・学校・関係機関との情報共有を重視していることを説明した。

4. 運営状況報告

2026年2月27日から9月14日までの運営状況について報告した。

地域密着型通所介護については、報告期間中の登録者・利用者ともに**0**名であった。

放課後等デイサービスについては、

- 在籍児童数：45名
- 1日平均利用：約12名
- 提供時間：平日13:30～17:00、土曜日・学校長期休暇10:00～16:00

等の利用状況を報告した。

活動については、個別課題、集団プログラム、外出活動等を実施しており、それぞれの利用者の特性や状態に合わせ、参加方法を調整していることを説明した。

5. 安全管理・事故等の報告

報告期間中の状況として、

事故報告：**12**件
うち車両に関する事故3件。軽微な擦り傷等についても事故として記録している。

ヒヤリハット：**76**件
拾い食いにつながる行動、傘の持ち方など、事故には至らなかったものについても記録している。

苦情・改善に関する申し出：**3**件

について報告した。

事故・ヒヤリハット等については、朝のミーティング等を活用して職員間で共有し、原因および対応方法について検討している。

また、虐待防止、感染症対策、防災、安全管理等について委員会を設置し、研修等を実施していることを報告した。

6. 高齢者受け入れに関する現状と課題

地域密着型通所介護の利用実績が0名であることを踏まえ、次の5点について参加者から意見を求めた。

1. 地域の高齢者・ケアマネジャー等への周知方法
2. 子どもと高齢者が安心して自然に関われる交流方法
3. 見学・体験利用につなげるための方法
4. 提供時間・支援内容と地域ニーズとの適合
5. 地域包括支援センター、民生委員、医療機関等との連携方法

過去に見学・体験につながったケースについても共有し、子どもと同一空間で過ごすことへの安全面の不安や、対象となる介護度との不一致等が利用開始に至らなかった要因として挙げられた。

7. 参加者からの主な評価・意見・助言

周知・対象者について

要介護1～2で、入浴・食事提供のない半日型サービスという特徴を考慮すると、幅広く周知するだけではなく、対象となる利用者像を具体化したうえで、ケアマネジャー等へ個別に情報提供していく方法が有効ではないかとの意見があった。

プログラムについて

理学療法士等の専門職の強みを活かし、機能訓練や運動等について具体的なプログラムを示すことで、ケアマネジャーが利用者へ提案しやすくなるのではないかとの助言があった。

安全面について

子どもと高齢者が同じ空間を利用する場合、転倒や接触等のリスクを考慮する必要があるとの意見があった。

受け入れ初期については、少人数から開始すること、職員による個別の見守り、休憩できるスペースの確保など、安全面を十分に整備する必要があるとの助言があった。

共生型サービスについて

子どもの特性によっては、高齢者との関わり方について個別の配慮が必要になる場合があるため、高齢者本人・家族等へ事前に十分説明し、相互理解を得ることが重要との意見があった。

一方で、特定の児童のみを交流対象とするのではなく、すべての児童の特性や尊厳を大切にしながら、段階的に共生の環境をつくっていく必要性についても意見があった。

他事業所から学ぶことについて

共生型サービス等を実際に運営している他事業所への視察やボランティア参加等を通じ、実際の運営方法、安全管理、交流方法等を学んではどうかとの助言があった。

8. 意見・助言を踏まえた今後の対応

今回の運営推進会議で得られた意見・助言を踏まえ、次の事項について検討・実施していく。

- 高齢者の受け入れについて、少人数からの段階的な開始を検討する。
- 受け入れ時の見守り体制、動線、休憩場所等の安全体制を整理する。

- 高齢者向けの事業所パンフレットを作成する。
- ADL、身体状況、興味・関心等に応じた具体的な活動・機能訓練プログラムを整理する。
- ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員、医療機関等への情報提供・連携方法を検討する。
- 共生型サービス等を実施する他事業所の視察等を検討する。
- 事故・ヒヤリハット等について引き続き職員間で共有し、再発防止につなげる。

今後も運営推進会議を通じて、地域および関係機関から意見・助言を受けながら、サービスの質の向上と地域に開かれた事業所運営に努める。